



校長室 だより

平成29年3月6日

尼崎市立常陽中学校

校長 小谷 豪郎 No. 14

季節は春を告げています

厳しい寒さの冬を終え、校内の紅梅も徐々に咲き始めています。次第に和らぐ陽光の下、心と気が付けば道ばたの草木が芽吹き春の訪れを告げ、季節の移り変わりを感じるころとなりました。

5日は『啓蟄』という季節を迎えます。啓蟄とは、陽気に誘われて、土の中の虫たちが動き出すころのことを言います。一雨ごとに春らしくなって来ます。

この時期の春を迎える行事としては、3月3日の桃の節句が有名です。古くは、穢れを流すということで女子の身代わりに人形を川に流す「流し雛」の風習でしたがやがて、女子の健康を祈り雛人形を飾る「ひな祭り」に変化してきました。

さて、学校で春といえば、出会いと別れの季節です。しかし別れは、新しいステージへの旅立ちでもあります。夢と希望に満ちた、輝かしいそれぞれの未来に向かって、新しい歩みを力強く踏み出して行って下さい。



第33回卒業証書授与式

日時 平成29年3月10日(金)

9:10 開場

9:35 思い出のビデオ上映

10:00 開式

場所 本校 本館4階 体育館

※ 全校生徒が式典に参加します。保護者席に限りがありますので、よろしくお願い致します。

育友会も頑張っています。

この度、尼崎市PTA連合会から本校の育友会活動に対して、大変嬉しい報告がありました。

市内全小中学校の育友会による広報活動の一環として、各学校が発行している広報誌のコンクールがありました。本校の広報部の方々が、毎回工夫して発行していただいている、『常陽の友』が2年連続優秀賞をいただきました。



広報部の皆さん、取材や写真撮影、校正など毎回工夫をこらした取組、大変ありがとうございます。とても見応えのある広報誌で、生徒たちも喜んで見えていますし、地域の方々にも大変好評です。

校門横の掲示板にも貼りだし、より多くの方々に見ていただき、学校の様子を知っていただけるように使わせていただいています。これからも常陽中学校の情報発信についてご協力よろしくお願い致します。



第33回・卒業生を送る会

2月25日(土)に武庫地区会館において、毎年恒例の市内全中学校の特別支援学級が合同で行う、「卒業生を送る会」が開催されました。

午前中は、各地区別に数校が合同で、楽器の演奏、大型紙芝居など趣向を凝らした様々な舞台発表で、楽しい時間を過ごしました。午後からは、卒業式と同じような式典を行い、各校の卒業生が、一人ずつ呼ばれ先生方からの応援メッセージカードや阪神南ロータリークラブから記念品をいただくなど新しい門出を沢山の方から祝って頂き全員で「この星に生まれて」を合唱して終了しました。



卒業に向けて、^{たびだち}出発の時

『人生すばらしきドラマ』君たち一人一人がこれからも、他人がうらやむようなすてきな『ヒーロー』『ヒロイン』へと成長していくことを願っています。

春は別れと出会いの時、しかし、この季節の別れは悲しいものではなく、新しいステージへ一歩踏み出すという明るい未来への「出発」たびだちのための別れです、それぞれが目標に向かいさらに大きく成長していく、新しいドラマの始まりです。

そして、長い人生の中のほんのわずかな3年間でしたが、この常陽中学校での出会いを大切にしてください。今皆さんは、この春からの新しいステージでの新しい出会いに胸をふくらませ、様々な思いを巡らせていることでしょうか。これから大人へと一歩ずつ近づいていく中での出会いは、生涯の友・親友として一生つきあっていくそんな出会いが多くなってきます。

ドラマには、主演と脇役がつきものです、主演を引き立てるのが脇役のつとめです、すばらしい脇役に巡り会うことを祈ります。

ちょっと息抜き・高齢者と若者

- ① 人生につまずくのが 若者
小石につまずくのが 高齢者
- ② 心がもろく崩れるのが 若者
骨がもろく崩れるのが 高齢者
- ③ 自分探しをしている 若者
自分の家を探しているのが 高齢者
- ④ 東京オリンピックに出たいと思う 若者
東京オリンピックまで生きていたいと思う高齢者

【今月の言葉】

『はやく、より確実に上達するためには？』

できる人、一流の人の良いところをマネし、盗み、自分のものにするのである。

できるゆえん、一流のゆえんを見つけ、感じ取り、そして、自分のものへと消化して行くのだ。